

～令和4年6月静岡県議会定例会における質問～

質問者: 沢田智文議員

質問日: 令和4年6月20日(月)【2番

目】会派名: ふじのくに県民クラブ

項目	1 しずおか遺産による歴史資源の価値向上に向けた取組について
答弁者	知事
質問要旨	<p>本県には、歴史的に価値のある遺産が数多く存在しており、現在800件を超える国・県指定文化財があるほか、「富士山」「韮山反射炉」の2つの世界遺産がある。</p> <p>また、日本遺産にも『旅人たちの足跡残る悠久の石畳道一箱根八里で迎える遙かな江戸の旅路』と『日本初「旅ブム」を起こした弥次さん喜多さん、駿州の旅～滑稽本と浮世絵が描く東海道旅のガイドブック(道中記)～』の2件が登録されている。</p> <p>この日本遺産は、有形・無形の文化財をパッケージ化し、認定する仕組みとして創設され現在、104件の文化財群が認定されている。</p> <p>文化財を活用することで、地域活性が図られ、さらには次世代を担う子どもたちが地域の文化財に誇りを持ち、自分が住んでいる地域の文化財や歴史について他市町(他県、他国で1つでもよいので自慢してもらいたいと願っている。</p> <p>そのような中、県では静岡県の歴史文化を物語るものを「しずおか遺産」として認定する制度を立ち上げ、令和7年度までに10件程度の認定を目指すとしているが、「しずおか遺産」への登録を目指す市町にとっては、どのような効果が期待されるか、将来的への展望がどのようなものになるのかという点を示すべきである。</p> <p>しずおか遺産の価値向上に向けた取組についてしずおか遺産による歴史資源の価値向上に向けた取組について県の見解を伺う。</p>

〈答弁内容〉

沢田議員にお答えいたします。しずおか遺産による歴史資源の価値向上に向けた取組についてであります。

本県には、議員の地元磐田市の遠江国分寺跡、あるいは、旧見付学校をはじめ、貴重な文化財が多数存在しておりますが、近年、過疎化や少子高齢化によ

る担い手不足の影響から、将来への保存・継承が課題となっておりまして、地域の皆様が、地元の文化財の存在や価値を正しく認識し、郷土愛を持って、守っていこうという機運を高めることが重要となっております。

「しずおか遺産」認定制度は、多くの皆様に地元の文化財や歴史を知っていただくため、地域に点在する文化財を、相互の関係や歴史の流れを踏まえ、地域全体のストーリーとしてつなぐことにより、分かりやすく「見える化」するものでございます。市町と連携して、地域に眠る貴重な歴史資源を発掘し、内容を充実することで、今後、国の「日本遺産」の登録が拡大される際には、有力な候補として提案できると考えております。

また、郷土の歴史文化を物語化することで、小学生、中学生など、地域の将来を担う子供達にとって、身近な文化財の価値を知り、郷土愛を育むきっかけになるものと考えております。さらに言いますれば、観光資源として活用することで、多くの皆様がサポーターとして、文化財の保存・継承に参画していただく契機にもなることを期待しております。

今後、市町に応募を呼び掛けてまいります。重要なのは認定審査委員であります。認定審査委員には、「日本遺産」の審査に関わった文化資源の専門家など、「しずおか遺産」認定にふさわしい有識者をお願いいたしまして、審査に加え、内容の充実への助言を賜るような方を選んで参りたいと考えております。

認定後は、「しずおか遺産」を解説する親しみやすい動画を作成し、共通ロゴマークを作りまして、そのロゴマークの下で一体的に紹介するとともに、地域の観光施設等と連携し、県内外にも情報発信するなど、様々な機会や媒体を通じて、周知を図る考えであります。

また、「静岡県文化財保存活用サポートセンター」におきまして、複数市町が一体となったストーリーづくりや、文化財に関する研修会等の開催、観光事業者との連携など、様々な面から、市町の保存・活用に向けた取組を支援してまいります。

県といたしましては、「しずおか遺産」認定制度を通じ、誰もが文化財に親しむ気運を醸成し、地域の文化財が貴重な地域資源として、確実に未来に守り伝えられていくよう、市町と連携して取り組んでまいります。

その他の御質問につきましては、副知事、関係部局長及び教育長から御答弁申し上げます。